

学会/受賞報告書

第150回日本循環器学会東北地方会 YIA(Young Investigator's Award) 症例発表部門最優秀賞受賞

循環器病態学分野 助教
円谷 隆治

今回私は、6月5日盛岡にて開催されました第50回日本循環器学会東北地方会において、**Young Investigator's Award (症例部門)**を受賞いたしましたので報告いたします。本賞は東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として設立された賞であり、症例部門と研究部門に分かれております。



今回私は、難治性である進行性巨大冠動脈瘤に対し外科手術およびカテーテル塞栓術を組み合わせたハイブリッド治療を行ない救命しえた1例を報告致しました。本症例は循環器内科、心臓血管外科、放射線科の複数科で協力して治療した貴重な症例であり、本賞を受賞できたのも御指導頂いた多くの先生方の御陰であります。またこのような貴重な機会を与えて頂いた下川教授および日本循環器学会東北地方支部の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

このような名誉ある賞を頂いたことを喜ばしく思うと同時に、本賞に恥じぬよう一層の努力をしなければならないと身の引き締まる思いであります。今後一例一例全力で治療に努め、東北地方の循環器病学ひいては医療の発展に寄与できるよう努力したいと思います。

受賞研究：

進行性の巨大冠動脈瘤に対し冠動脈バイパス術とコイル塞栓術によるハイブリッド治療を施行したDor術後症例

円谷隆治¹、高橋 潤¹、安田 聡¹、小田克彦²、川本俊輔²、高瀬 圭³、武田守彦¹、伊藤愛剛¹、高木祐介¹、中山雅晴¹、伊藤健太¹、田林暁一⁴、下川宏明¹

1. 東北大学循環器内科
2. 東北大学心臓血管外科
3. 東北大学放射線診断科
4. 東北厚生年金病院心臓血管外科

抄録：

55歳女性。6年前冠動脈バイパス術・Dor手術施行。SLEのためプレドニン服用中であったが、昨年胸部異常陰影を指摘され以降急激に増大。胸部CTで右房を圧排する最大径74mm大の巨大右冠動脈瘤を認めた。同時期に心筋梗塞を発症し入院。MRIにて瘤内の血栓形成とともに血管外漏出像があり切迫破裂も疑われた。低心機能・手術既往例であることから1) 右冠動脈瘤遠位部を直視下に結紮しその末梢へ右胃大網動脈を用いオフポンプバイパス術を行い、2) 翌日冠動脈瘤入口部を経カテーテル的にコイル塞栓した。周術期心筋梗塞合併はなく、術後4ヶ月に施行したCTでも瘤内血流は認めず、最大径68mmまでに縮小した。進行性の瘤状血管病変のみならず全身的にもハイリスクのためハイブリッド治療を選択し救命し得た稀な症例であり報告する。